

大会宣言

本日、我々は第29回定期大会を開催し、組織の将来展望を明確にする議論を行い、今後の闘う方針を満場一致で確認した。

反動の嵐に抗して闘い続けてきた我々が今大会で確認したことは、東海の地から労働運動の火を消さずに、労働者の権利と利益を守るために更に奮闘することである。

我々は今日まで、職場での闘いと第三者機関を活用した闘いを展開し、命令と服従の職場支配体制づくりを跳ね返してきた。そして共に闘う仲間を拡大してきた。

ロシアとウクライナの対立はますます激化し、罪のない市民と労働者の犠牲は拡大している。岸田政権はこの状況をいいことにマスコミを最大限活用し、防衛費の増大と憲法改悪を画策している。そして8月24日、政府と東京電力は福島で核汚染水の海洋放出を始めた。

JR東海は、リニアの2027年開業を断念した。その他方で、「業務改革」と称する大効率化を進め、関連・グループ会社の「グループビジョン2032」と連動して増収活動に必死である。「業務改革」は、JR東海だけが独自で考えたことではなく、JR各社が連携して行っているもので、その大元は経労委報告であり、岸田政権が進める「新しい資本主義の実現」で、日本型雇用システムをジョブ型雇用に転換する策動である。つまり、これと連動して今や、企業内労働組合を言いなりの御用組合として存在させることにあきたらず、消滅しようとしているのである。そのような状況下の8月18日、我々の仲間が関西新幹線サービック内にJRサービック労働組合を結成した。労働者の権利と利益を守るために闘う組織が新たな場に結成されたのである。我々は新生JRサービック労働組合と固く連帯し共に進む。

我々は諦めない！ 諦めてしまえば認めたことになり、それで終わりである。

1993年の大弾圧から30年。我々は仲間との議論と実践を通じて組織展望を切り開いてきた。我々の未来は我々が決める。

自信と確信をもって更に奮闘しようではないか。

以上、宣言する。

2023年8月28日
JR東海労新幹線関西地方本部
第29回定期大会

新生 J R サービスック労働組合と連帯し

J R 東海労の組織展望を切り拓く特別決議（案）

端緒は常に困難である。そして、それを切り拓くためにもっとも重要なのは、最初の第一歩を踏み出す勇気と行動である。

8月18日結成された J R サービスック労働組合（J S 労）は、まさに実践においてそれを証明した。多くの障害と、内なる日和見を克服して結成された J S 労は、誕生したばかりの声をあげ、旗を振って結集を呼びかけている。

誕生した J S 労は、内外から注目を集めている。サービスックから、J R から、職場の内と外で注目を集め、まるで妖怪でも出没したかのようなのである。

我々は、産声をあげた J S 労の活動に期待し、連帯することを宣言する。なぜなら、彼らの活動こそが、関連企業・出向先の労働者と連帯するという、わが J R 東海労の組織方針を具現化し、組織展望を指し示す大きな力になると確信するからだ。

産声をあげたばかりの妖怪・J S 労とわが J R 東海労は固く連帯し、共に歩もうではないか。

我々は、多くの困難や妨害が待ち受けていることは百も承知の上で進む。

我々は、今、新たな、そして悔いのない未来に向かっていくことを確信しよう。いざ、進まん！

以上、決議する。

2023年8月28日

J R 東海労新幹線関西地方本部

第 2 9 回 定 期 大 会